Associé　2020.05

社会福祉法人京都福祉サービス協会　情報誌　アソシエ　No.1　　編集／広報委員会

創刊特集　新型コロナウイルスとのたたかい

「新しいタイプの感染症が中国武漢で流行し、当局が都市封鎖を実施」、「横浜に寄港したクルーズ船で乗客ら多数が感染し混乱」。これらのニュースに接していても、現在のような状況になるとは想像もできませんでした。

しかし、新型コロナウイルスの猛威は瞬く間に私たちの日常世界にも押し寄せ、４月７日には特措法に基づき７都府県に緊急事態宣言が発せられ、１７日には全国に拡大、５月４日には宣言が５月末まで延長されるという事態になっています。

「ＰＣＲ検査」「濃厚接触」。私たちの日頃の業務の中ではあまりなじみのないこれらの言葉に翻弄され、発熱という介護現場等では珍しくない日常的な情報にも緊張感が走る日々となった三か月余りでした。この間、私たち京都福祉サービス協会の訪問介護や児童館、高齢者福祉施設等の現場においても、ご利用者、職員、また家族に感染疑いがある、ＰＣＲ検査の対象となったという事例が数多く出てくるようになり、その度に万が一の対応準備に奔走することとなりました。

幸いこれまで（５月７日時点）陽性患者の発生はありませんが、発熱等の体調不良者の把握と情報の集中管理、不足する衛生資材の確保、感染防止策の徹底から職員の通勤緩和対策、柔軟な休務の取扱まで、日々変化していく状況の中で、次々と対応を迫られています。また、法人本部においても、事態の全面化、長期化を見据え、早期に法人としての対策本部を立ち上げ、協会一体となり、このような状況下でも介護等の重要な社会機能を維持できるよう、懸命に取り組んできました。

いま、ひとつの感染症が短期間に全世界を覆い、猛威を振るうという未曽有の事態の中で、私たちがどのように考え、どのように対処しているか、そのごく一部ですが、伝えあい、理解しあうことで、この難局を乗り越える「力」にしたいと思います。

２０２０年４月２８日

職員の皆様へ

京都福祉サービス協会　　理事長　浅野　信之

新型コロナウイルスへの対応にあたって

現在、新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大を食い止めるため、全都道府県に緊急事態宣言が発出され、京都府も特定警戒都道府県とされ、市民生活に多大な影響を及ぼしています。

こうした中で、職員の皆様におかれましては、子どもたちやご高齢者、障害のある方の安心・安全を守るため、日々、献身的なご尽力を重ねていただいていることに対しまして、改めて心から感謝申し上げます。

協会においては、この間、私を本部長とする対策本部を設置し、様々な取組を行っておりますが、既にいくつかの事業所、施設、児童館等において感染リスクと隣りあわせとなるような状況が見られるなど、内外の環境は今後とも予断を許さないものであると言わざるを得ません。しかしながら、こうした時であるからこそ、今一度、私たちの使命に立ち返り「人によりそい、地域にかかわり、共にあゆむ」ことを通じて「くらしに笑顔と安心を」取り戻していこうではありませんか。

そのためには、協会が組織的にしっかりと連携して、この状況に立ち向かっていくことが重要であり、その成否は職員一人ひとりが心を一つにすることにかかっています。このため、私は、皆様のご意見をお聞きしつつ、これからも積極的に対策を講じてまいりますので、ご理解、ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

なお、ご利用者だけでなく、ご自身、ご家族の感染リスクを少しでも減らせるよう、プライベートにおかれてましも、以下の事項について、ご協力をいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

①手洗い、咳エチケット等の感染防止対策の徹底、②「３つの密」（換気の悪い密閉空間、人が密集している場所、密接しての会話等）の徹底的な回避、③さらに、人と人との距離をとること、④不要不急の外出の自粛など、基本的な行動の徹底に加えて、帰省などで高齢の両親、祖父母と接することを控えること。

更には、ゴールデンウィークにおいては、都道府県境をまたぐか否かに関わらず、人混みに出掛けて自らを接触のリスクに曝してしまう機会を厳に慎むこと。

新型コロナウイルスなんかに負けない　1

法人対策本部

法人本部では、２月末に理事長を本部長とする「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、同感染症に関する法人内の情報の一元管理と協会一体となった対応並びに情報の発信を行う体制を整えました。この中では、感染防止と職場の体制確保等のために、厚生労働省の感染防止のマニュアル等も踏まえ、主なものとして次のような取組を実施するとともに（５月７日現在実施分）、毎週の定例に加え、随時にも対策会議を開催し、必要な追加策等を検討しています。

○　情報の一元管理
- 感染リスクや感染疑い事案の把握と情報集約
- ご利用者とその家族、職員とその家族等の発熱等の体調不良情報の収集及び迅速な報告・連絡・相談の徹底

○　感染防止策の徹底
- 手洗い、マスク着用の励行、各所における消毒の徹底
- 職場における密閉、密集、密接の回避の徹底
- 協会主催の各種研修会の中止又は延期
- 内部会議の中止又は延期あるいは徹底した感染防止策を講じての開催
- 職員同士の懇親会等の自粛及び密閉、密集、密接の回避の徹底による職場外での行動自粛

○　職員の体調、子育て事情等を考慮した服務管理
- 毎日の出勤前の検温と記録（37.5℃以上の場合の報告）
- 体調異変時の受診指示、自宅待機等の体調に見合った服務管理とこれに伴う必要な休務の承認
- 小学校休校時等における対応不能時の親の休務又は止むを得ぬ場合の子連れ出勤等の承認

○　通勤等に係る臨時的措置
- 時差出勤希望者への適用
- 自動車通勤を一般的通勤手段として認めることによる通勤時の感染リスクの低減化
- 自動車通勤の場合の駐車場料金の一部補助を臨時に実施

新型コロナウイルスなんかに負けない　2

醍醐事務所

伏見区醍醐地域、ご高齢の方もたくさん住んでおられますが、障害のある方もたくさんおられます。ケアマネジャー、サービス提供責任者、ヘルパーが一体となりサービスを提供されている醍醐事務所。猪師所長に取組を伺いました（2020.4.13 時点）。

新型コロナウイルスに関する話題や情報があふれる日常ですが、当事務所では『世界有数の長寿国の高齢者の健康寿命をサポートする』役割を担っているとの自負のもと、日々業務に励んでいます。

去る３月には、地域の医療機関で感染が確認されたとの情報が、関係事業所から入りました。まず対応したことは、ケアマネジャーが中心となって当該医療機関のサービスを利用している方及びご家族への連絡、訪問介護部門では当該医療機関に関係のあるご利用者を担当するヘルパーへ、感染防止策を徹底させることでした。あわせて、本部に随時現状を報告し指示を得るとともに、『ご利用者の生命を護るために、また、従業員が安心して業務を遂行するために、どのように対応するのがＢＥＳＴか？』を本部と事業所とで検討を続けました。感染を広めないために”訪問しない”選択をした事業所もある中で、“訪問する”選択をしたことが本当によいのかと、迷い、悩みながらの対応ではありますが、現在もそれは変わりなく続いています。

ヘルパーは、自身の感染はさることながら、媒介となって他のご利用者や自分の家族に感染させてしまうリスクを危惧し、不安を抱きながら訪問を続けています。このたびの対応を通じて、そのようなヘルパーのプロ意識が職員を引っ張ってくれていると強く感じました。

今後、いつまでこの状況が続くのかわかりませんが、国の指針を確認しながら、現場でできることは最大限努力し、これからも従業員の安心と安全のために、何をしなければならないかを皆で考え、悩みながら対応していきたいと考えています。

“新型コロナウイルスが蔓延する中、ヘルパーは感染リスクを背負いながら、今日もご利用者宅のドアを叩きます。”

先日、全ヘルパー向けに発信したメールの中では、こう記しました。

「緊急事態宣言の延長も相まって、以前の日常はいつ戻るのか、これまでの暮らしぶりや仕事の在り様は様変わりしてしまうのか、不安ばかりが募ります。このような状況の中、ご利用者の生活を支え続けていただいている皆様に、心より感謝申し上げます。また、この間の多大な心労やストレスについては、察するに余りあります。

これまでのところ、協会においてはご利用者、従業員の感染事例は発生していません。各種対策が十分ではない中、皆様方一人一人が感染防止策を適切に実行していただいていることがひとつの要因かと存じます。」

ヘルパーはまさしく戦い続けています。各種支援策の充実はもちろんですが、今は感謝の言葉を重ねる以外、労いのすべが見いだせないほどです。

京都福祉サービス協会　居宅本部長　松本　勝一

新型コロナウイルスなんかに負けない　3

錦林児童館

錦林児童館は、錦林小学校の運動場の北東角に平成 22 年 9 月に開館。窓からは丸太町通り越しに平安神宮の森が見えるなど、周辺には有名な神社仏閣が数多くあります。

さまざまな年齢の子どもたちが利用している児童館ですが、今、どのような対応をされているのでしょうか。榎本館長にお話を伺いました。（2020.4.20 時点）

── 児童館の運営の現状について教えてください。

京都市内では、3 月 5 日から始まった学校一斉臨時休業に応じて、児童館の自由来館事業の中止が続いています。地域の子どもと家庭の自由な利用を基本とする事業の性質から、不特定多数のご利用者の接触により、感染症が拡大することを予防するための対応です。

地域の小さな子どもたちから中高生世代、そして保護者の皆様が楽しみにしてくださっているこの取組を中止することは、大変心苦しく残念です。開館を心待ちにしているという温かい応援やご理解に感謝しつつ、楽しく安心してご利用いただける居場所として再開できるよう、準備を進めています。

── 学童クラブの運営はどうなっていますか？

自由来館事業中止の一方で、児童館の学童クラブ事業の利用児童は、保護者の就労等により自宅で、しかも子どもだけで過ごすことができない場合も想定されます。ご利用者やそのご家族の生活維持と、社会基盤の安定のためにも必要なサービスであることから、事業を継続しています。

── 学童クラブ事業を継続するにあたり、気をつけていることは何ですか？

利用児童数の増加に伴い、生活空間における子ども同士の距離の近さを避ける対策は非常に難しくなります。そこで、保護者の皆様には可能な限り家庭内保育にご協力いただいています。新型コロナウイルス感染症の拡大を予防するとともに、子ども一人一人の心と身体の健康管理の観点からも、利用時間が長い児童への配慮や、子どもたちの体調確認についてお願いしている毎日です。

掃除をする場所等、職員の役割分担も決まっています。

── いつも元気いっぱいの子どもたちなので、学校にいけない、思いきり遊べないといった不満が募ってきている頃かもしれません。心のケアも大事になってくると思いますが、いかがでしょうか。

子どもなりに感じている、漠然とした不安や不満が、仲間への誤解や人権侵害につながることのないように、子どもたちの言動の観察と対応、心のケアも大切になっています。

学童クラブの生活の中で、子ども達にとって最も大切な時間は、友達と遊び、一緒におやつを食べるとき。遊びとおやつの時間が楽しく穏やかな時間となるよう、空間や動線に工夫をするとともに、建具と床、文具と玩具など備品の消毒と衛生管理に気を配る毎日です。

向かい合って、おしゃべりしながら食べるおやつの楽しさを再び味わえる日まで、子ども達も頑張っています。

── 最後に今後についてお聞かせください。

状況の変化に沿い、感染症対策の基本から外れることなく、子ども自立支援と子育て家庭支援の視点から児童館が現時点でできることを丁寧に行い、利用者の皆様と児童館の全てのスタッフが心を一つにして、大きな試練を乗り越えていきたいと考えています。

昨年の、おやつの様子。みんなで楽しくお話ししながら食べていました。

今年の、おやつの様子。間隔をあけて、同じ方向を向いておやつを食べます。

マスクと泥団子。思いっきりみんなと外で遊べる日までもう少し。

石鹸でしっかり手を洗います。消毒も忘れずに行います。

新型コロナウイルスなんかに負けない　４

高齢者福祉施設 紫野

介護施設ではどのような状況なのか、高齢者福祉施設 紫野の小谷部長にお話を伺いました。（2020.4.27 時点）

── 施設部門では 2 月下旬よりご家族の面会制限を行っていますが、今後いつ制限が解除されるのかも見通しがつかない状況かと思います。そんな最中、ご家族への対応はどのようにされていますか？

面会は原則禁止としていますが、看取り期や危篤状態の方には感染予防対策を徹底したうえでお会いしていただくなどの配慮をしています。また、先日、差入れをご持参いただいた際には、施設のビデオ電話を使いお話していただきました。久しぶりにお顔が見られて、お互い安心されたようです。商品は、直接の手渡しではなくテーブルに置いていただいて受取り、商品の表面をアルコール消毒しています。

ご入居者には、ご家族あてにお手紙を書いていただきました。皆様、ご家族を気遣う文面を綴られたのだと思います。

── 施設は複数のサービスを提供していますが、ご利用者への具体的な対応について教えてください。

デイサービスは、お迎えの際に体温の確認と乗車時に手指消毒を行っています。紫野ではショートステイは空室利用のみなので、現在受入れはしていません。浴室利用に当たっては、デイルーム、2 階、3 階の担当職員を明確に分け、デイルームにある特殊浴槽の利用時間も分け、交わる時間をなくしました。

── 業者や嘱託医師の往診は、どうされていますか？

業者からの納品などは玄関先で行い、施設内への立入りは禁止しています。また、看取り期の場合、嘱託医師がビデオ通話でご家族に説明することもあります。通常の回診は、４月２０日からは来所せず、タブレットを使用して、ビデオ通話や写真、動画の送信により行っています。

──ご利用者の生活のためには職員の支援が不可欠ですが、職員の動き方に変化はありますか、具体的に教えてください。

職員用の食堂があり、普段は多くの職員が利用しているのですが、3 密が懸念されます。そのため、食事・休憩場所をエリアごとに分けるとともに、同じ方向を向く、背中合わせなど、配置にも気を配っています。食事の受取りもシャッター越しになりました。デイサービスのフロアは一足制のため、外部のウイルスを職員が持ち込み、広げてしまう可能性がありました。そこで、上履き、外履きで動ける範囲を明確に区切りました。

── 環境面では、どのような対策をしていますか？

換気を 2 時間に 1 回 10 分と決めており、その 10 分間は消毒の時間としています。開始と終了の合図は館内放送で。換気や消毒が定着するまでは、チェックシートをつけています。また、階を移動する際には手指消毒を徹底するため、前向きに消毒しようとの主旨のメッセージカードを容器に付けました。また、事務所内は職員一人一人の間を段ボールで仕切りました。

その他、手作りフェイスシールドの作成、全国老施協の資料を基に職員が感染した際の対応フロー作り、職員が体調不良時の体調経過記録用紙の作成を行いました。

── 様々な対応は大変ですが、前向きに捉えられる部分もあるのだとか。

例えば、換気を呼びかける館内放送は、事務所の非常用放送設備で行っているため、今まで触れたことのない職員も放送ができるようになり、災害への備えになりました。また、医師とのやり取りにビデオ通話を使用することで、今後『念のため受診する』ということがなくなり、ご入居者の負担が減るのではないかと考えています。フロア対応職員を固定しエリア分けしたことで、インカムでのやり取りが増えました。

連日の報道や日々の感染予防対策の実施で職員の気持ちも沈みがちです。しかし、今行っていることや経験が、この先コロナ対策以外にも活かされるよう、“ピンチはチャンス”と捉え、前向きに取り組んでいきたいと思っています。

編集後記

- 法人情報誌創刊号。第２期中期経営計画の実施項目のひとつ。
- 予定稿は次号に回し、急遽新型コロナウイルス特集号に。
- 名前の「Associé」はフランス語で「関連付ける」の意。英語で「Associate」。名詞で 「Association」、即ち「協会」。
- 私たちの協会は、福祉サービスの力で様々な人々を「関連付けて」地域共生社会をつくる法人。故に福祉サービス協会。
- 広報委員会はまだ暫定。それでも「協会の内外をつなぎ、関連付ける情報誌になりたい」と、志は高い。　【 M+M+K 】